

ふるさと歴史アラカルト

岩国の昔ばなし 8 古い墓

昔話によく登場する動物の中にキツネとタヌキがいます。彼らは化けて人間をだます動物として描かれることが多く、今回の話もその一つです。

岩国の城下に松井という姓の武士が住んでいました。ある日、松井氏は狩りで鳥を撃つために錦川の上流へ行き、あちこちを歩きまわった後、近くの小屋に泊めてもらうことにしました。その小屋には老夫婦が住んでいましたが、その日は夫が留守で、老婆一人しかいなかったそうです。松井氏がその老婆と話をする中で、老婆は「家の向かいの山の上に古い墓が一つあるのですが、私の夫が留守の日の夜になると、なぜか墓に火が燃えるのです。私はそれがとても恐ろしくて…。今夜も夫が留守にしているので、きつと燃えることでしょう」と語りました。しかし、その夜は松井氏が泊まっていたため、結局、火は見えませんでした。

次の日、松井氏はその墓の場所を老婆に聞き、火が燃えると言っていたその位置ちょうどに狙いを定めて鉄砲を向け、家の柱にしっかりと結び付けました。そして老婆に対し「今夜一人でいるときに火が燃えたら、この鉄砲の引き金を引きなさい」と丁寧に教えると、その夜は他の村に狩りに行って泊まることにしました。さて、その夜は老婆が一人で家にいたのですが、いつものように火が燃えたため、松井氏に教えられた通りに、鉄砲の引き金を引くと、火はすぐに消えてしまいました。夜が明けた後、松井氏が家に来て「様子はどうでしたか？」と尋ねると、老婆はそのとき起こったことを説明しました。それを聞いて二人で墓の場所に行ってみると、大きな年老いたタヌキが胸を打ち抜かれて死んでいるのが見えました。その後は、火が燃えることは二度となかったそうです。



今回の史料

『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』

江戸時代に岩国藩士広瀬喜尚が記した「岩邑怪談録」を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。明治43(1910)年。

◀『岩国沿革志（怪談録追加・実事談）』挿絵より

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 141,945 人【前月比 -76人】 男性 67,207 人 女性 74,738 人

世帯 66,728 世帯【前月比 -12世帯】 ※外国人人口を含む（平成26年9月1日現在）

交通事故発生件数 8月分事故件数 35件(345件) 死者数 0人(6人) 傷者数 41人(410人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成26年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337